

倉庫の街に暮らしてた頃	隣の部屋は若い女で
朝が一緒に話すうち	いつかその娘と親しくなった
彼女は窓辺に季節の花を	いつもいくつか作ってたけど
陽の当たらないアパートの部屋	花はなかなか育たなかった
彼女は僕に花の名前を	いくつもいくつも教えてくれた
百合にベコニア アネモネ 桔梗	水仙 エビネ オダマキ すみれ
窓辺の花はだんだんふえて	僕の部屋にも鉢が並んだ
僕はいつしか心に決めた	結婚するならこの娘にしよう
ところがある日彼女が消えた	何のことだか解 <small>わか</small> からなかった
そしてふと見た新聞記事に	彼女が大きく取り上げられた
密入国の手引きしたとて	検察庁に送検されたと
しばし僕には信じられずに	食事もできずに数日すぎた
そうして更にびっくりしたのは	僕が育てた植木鉢には
麻薬のものが植わっていたと	僕も任意で同行された
まもなく僕は釈放されて	無事に家まで帰ったけれど
あの日のことをふと思い出す	あの娘今ごろどうしているかと
今でも僕はあの娘のことを	心の奥で愛しているよ
もし出逢えたら結婚しようと	はっきり言うよ愛してるから